

みどころ：木彫りの棧唐戸

旧開智学校校舎の棧唐戸は、もともと浄林寺から移築されたものである。8 枚の扉の上部には、原田蒼溪（1835-1907）という彫刻家が手がけた龍が舞い上がり、波が打ち寄せるという精巧な彫り物が施されている。同様のモチーフは、正面玄関ポーチの装飾にも見られる。

当初、これらの戸は柱に固定され、その上に戸を開閉するためのソケットが取り付けられていた。開智学校では、この柱とソケットを、輸入された金属製の蝶番とドアノブに交換し、モダンな洋風スタイルにしたのである。

もうひとつ、あまり目立たないが、戸に施された変化も " 洋風 " を強調するものだった。それは、塗装で隠れてしまう木目を丁寧に再現することだった。これは、木製の戸の下地に塗料を塗り、その上に木目調の模様を丹念に描いたものである。